

【ねがいましては】

令和4年7月25日

KYOWA SCHOOL

第378号

「面倒を見る矛盾」

多くの著名な方々が一貫して述べられることがあります。「失敗があったからこそ成功がある」亡くなられた元安倍総理も某大学の卒業式で語られています。「多くの失敗から多くを学んでいただきたい」

この点にポイントを置いて考えてみました。

まず、赤ちゃんの面倒を見る。当然自分で歩くことも食べることも排泄することもできないわけですから、面倒を見ます。やがて体力がつき始めると這い這いができるようになり、自ら目的とする所へ行き、自らの手で掴みたいものを掴んでみたり、そして歩くようになると、周りはなるべく多く歩かせようと手を出すことを控えるようになります。自立を手助けしているわけです。ここで大切なことは『成長』への手助けとして、『手を出さない』という行為を周りは自然に取るようになっていくわけです。お年寄りに目を向けます。何から何まで面倒を見ようとすると、そのお年寄りはやがて筋力が衰え自らでは歩行できなくなってしまいます。医師は訴えます。「なるべく歩いてください。」自立歩行をできるだけ長く温存することで老化のスピードを遅くすることができます。それはご自身にとっても、ご家族にとっても「しあわせ」に違いないはずで

つまり、なるべく手を出さないことが、少なからずとも「しあわせ」につながりやすいことになります。

さて、目線を教育界に持って行きます。小学校・中学校・高校など、子どもたちは社会へ巣立つためのトレーニングをその時期に積むわけです。果たしてどのようなことが優先されているのか。妙なことがわかります。

現代、子どもたちはかなりの割合で「塾」へ通います。その目的は「成績」です。中学校などは定期テストの「評点」だけでなく、「順位」まで経験することになります。そして思わぬ結果に子も親も驚き、「塾」です。その目的は、成績を上げるためです。もしくは希望の学校へ合格するためです。

塾決定の決め手となるのは、どこまでしっかりと面倒を見てくれるか。間違いなく確実に成績を上げるための様々な方法を試行錯誤し、面倒を見てくれること。その結果、希望通り「成績向上」「志望校合格」を遂げることで、子や保護者の信頼をいただくことになります。

結論、失敗はダメなのです。つまり、転んではダメなのです。転ばせないためにある方法を塾は投じます。カリキュラムをつくってくれます。転ばないために……。

『成長』にとって何が大切なことか。赤ちゃんなら転ぶことを多く経験して、転ばない歩き方を自然に身につけていきます。親が先に小走りに歩こうものなら、子は置いて行かれるのでないかと不安になり、必死に追いかけます。転びます。立ち上がります。転びます。それでも転びます。そしてもうダメだと感じたとき、泣き出します。赤ちゃん時代なら、起こしに来てくれるでしょう。しかし、子の体が成長したあとは、もう親のほうが体力が衰えはじめています。

転んでも起こしになど来てくれるはずがありません。泣いても起こしに来てくれません。当たり前です。その時期には、子はすでに学習しています。「泣いても何も変わらない……」

「成績」というものがあることで、社会には珍現象が起こっていることに、子も親も気がつくことが大切だと思います。面倒は見ない。まず自らが今どのような状態なのか、しっかりと見つめることです。何が原因で今があるのか発見できないとき、専門家に相談することです。それが本来の塾だと思っています。そして歩む姿をじっくりと見ていただく、そこに「生きようとするエネルギー」を感じられなかったら、しっかりと忠告していただく。「あなたには『本気』が感じられない。ただ、周りの評価ばかりに気を取られ、その評価に自分をあわせているだけ。」

子は本気で生きようとする瞬間が一番美しいと私は思います。だから似合います。自然の中で遊ぶ姿です。

自然はどれもこれも精いっぱい生きようとしています。植物も動物も、昆虫も……。そうでないと簡単に死が訪れてしまいます。だから一瞬も気を抜くことなく精いっぱい生きています。そこに子どもが重なります。子どもも精いっぱい生きようとして遊んでいます。美しい姿です。似合います。

テストで思い切り予想に反した結果が現れた。その時、何故そうなったか、何が原因か、そしてその過ちを次回繰り返さぬようどのような対策を講じるか。すぐさま行動に移ることこそ生きようとする姿です。

巷で「良い塾」と言われたら、間違いなく成績を上げることであるとするなら、ただ黙って、塾の作り上げたカリキュラムが自分の机の前にだされるままに「やりなさい、そうすれば成績はあがります。」とあって、ただ座っているだけでは『真の成長』は成し遂げられないはずで

自らの想い、自らの行動を堂々と見せることこそ「成長」につながります。そこには失敗がつきものです。その失敗を「よくやった」と、褒め称える存在が必要です。それは……。

ご両親です。

ご両親に称えられ、認められ、信頼された瞬間、子は野に放たれた生命へと変身いたします。